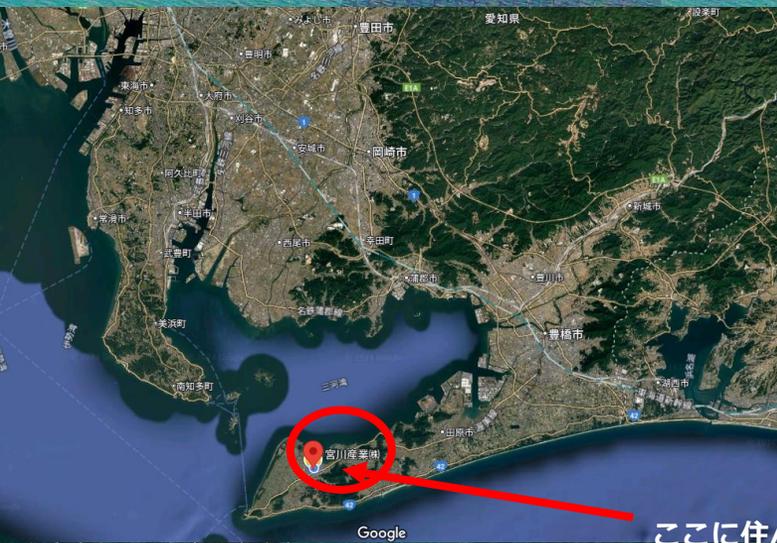




ぬくといところ、TAHARAサイクル！

海の特種肥料「マリンプランツ」を活用したハウスいちじくの商品化及び販路拡大

私たちは田原市に住んでいます

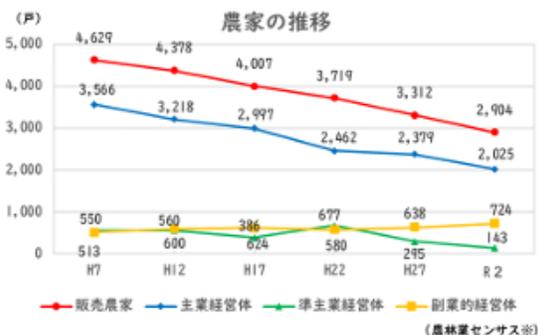


ここに住んでいます！

田原市農業の現状

① 販売農家数の減少

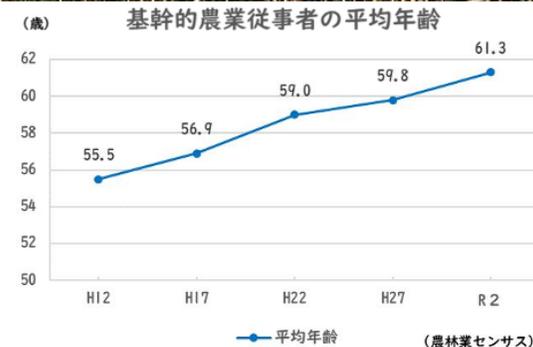
田原市の販売農家数は年々減少し、令和2年では2,904戸となっており、平成12年からの20年間で1,474戸(33.7%)が減少しています。全国では、令和2年は1,028,000戸で平成12年からの20年間で1,309,000戸(56.0%)減少し、その数を大きく減らしています。



※H7～27は主業農家、準主業農家、副業的農家の推移。
R2は主業経営体、準主業経営体、副業的経営体の推移。
(農林業センサス※)

② 農業従事者の高齢化

令和2年の田原市の基幹的農業従事者*の平均年齢は61.3歳となっています。全国平均の67.8歳と比較して若いものの、田原市でも農業従事者の高齢化は着実に進んでいます。



【農業者及び農業関係機関の主な意見】

- 高齢化における農業就農者の減少が心配である。
- 高齢化が進むと、農地*はどんどん空いていくと思うので心配である。
- 農家では、親や夫が要支援・要介護になった場合、嫁や妻に介護が集中する傾向が強く、仕事との両立が大きな課題となっている

田原市農業の現状

休耕地や放棄地が加速して増えている



宮川産業は
あおさ専門のメーカーです



農業をやらまい！
社長の一言から始まった、挑戦！！！！





実は...

農家、宮川産業

A photograph of two women in a greenhouse, smiling and holding figs. They are wearing blue gloves and dark jackets. The woman on the left is wearing a dark bucket hat and a dark jacket. The woman on the right is wearing a dark bucket hat, a black and white polka-dot headscarf, and a camouflage-patterned jacket. They are standing in front of a large greenhouse structure with a metal frame and plastic covering. The background shows green foliage and a bright sky. A white banner with black and pink text is overlaid on the image.

海の特種肥料「マリンプランツ」を活用した
ハウスいちじくの商品化及び販路拡大

施設の再利用化

休耕・放棄地施設



補修・保全



あれ？ どーして、どーして？？？

水捌けが悪い土壌・発育が遅い



いちじくの色がなかなか付かない



マリンプランツを活用



キャベツ畑へ
活用実績あり

あおさ採取

あおさには砂や泥も付着しています

海底に生息するあおさを
T字の器具を使い引き上げます。



マリンプラントツ生成方法



第1 洗浄機

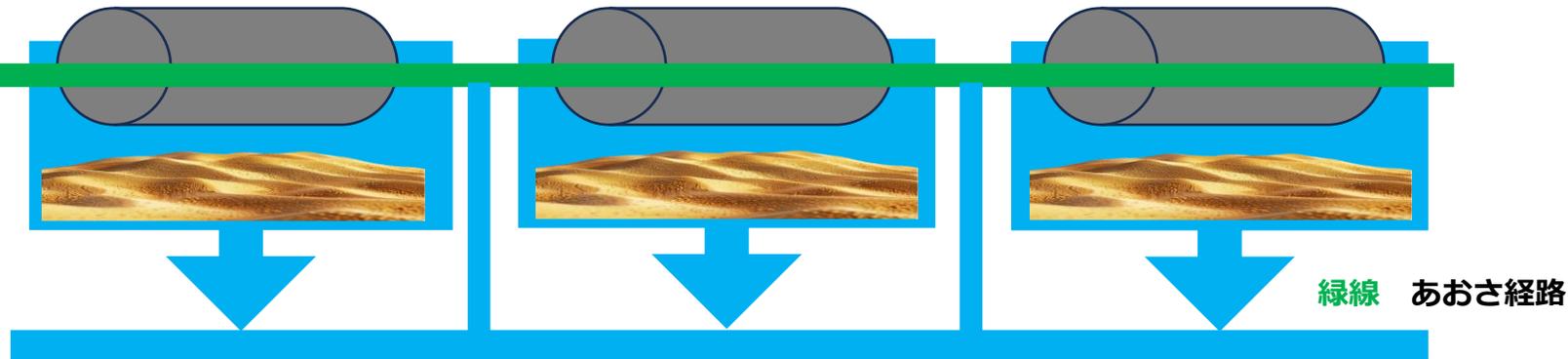


第2 洗浄機



第3 洗浄機

各洗浄機の略図



- ・ あおさに付着している砂や泥を洗浄
- ・ 洗い落とし、沈殿させる
- ・ 沈殿物を排出し、生成場所へ輸送



マリンプランツ使用の比較

活用前のイチジク



活用後のいちじく



2023年5月販売開始

マリンプランツを活用した
ハウスいちじく

「いち美」として販売を開始いたしました。

<作付け面積>

71a (約2,147坪)

<収穫量>

208,692玉 (2024年度実績)

<秀品率>

97% (他の農家の平均秀品率: 80%)



まるごと!

完熟いちじく いち美

12玉



宮川産業の
こだわりいちじくは
私たちが育てています!

ギリギリまで木に成ったまま
追熟することで、
甘~くなるハウスいちじく。
皮がとっても薄いので、
皮から丸ごと **ガブ**っ
召し上がっていただけます!



私たち、実は……

あおさも
つくっているんです!

あおさの洗浄で落ちる
土や砂を自然乾燥させた
「マリンプランツ」と
言われる肥料を
まぜた土壌のおかげで、
ミネラル豊富で糖度の高い
いちじくを育てることが
できるのです。

いちじくに込めた想い

春の日差しを肌を感じる時、
照りつける太陽の中で
艶やかな赤紫色のいちじくを収穫する時、
作り手としての情熱を
一玉一玉に込めて届けたい。
そんな想いで栽培をおこなっております。
いちじくを召し上がっていただける方が
笑顔に、幸せな気持ちになることを願っています。





田原の海は 海藻類・貝類の宝庫



田原市の内海（三河湾）

- 三河湾のさらに湾内
- 遠浅の地形
- 湾内独特の海流
- 沖に自然の防波堤

沖合の瀬
(自然の防波堤)



渥美半島は海と畑が密接につながってる

渥美半島たはらブランド認定



ミカワ SDGs

177

つくる責任 つかう責任

宮川産業 田原

海の肥料でイチジク栽培

近隣の農家に配ってきたと、0.0tができる。アナオサは5年前、イチジク栽培に付いた3tほどの貝殻も混ぜてつくった。自社で本格的に活用した。した砂状で、土壌に混ぜると



水はけが良い。同社農業事業部の宮川友穂部長(38)は「しっかりと根を張って成長してくれるので適していると思う。みずみずしい実が育っている」と説明する。市内には離農などで使われなくなった温室が点在する。同社はこうした「中古の温室」を買い、徐々にイチジク生産を拡大してきた。いまでは当初の約7倍の6700平方メートルで500本ほどを育てている。大量に生産されるマリンプラント。それを各農場に投入すればするほど、「もともと異なる土壌も均一になり、安定してイチジクを生産できている」という。さらに同社は、傷ついて出荷できなかったイチジクをジャムにして販売している。「社内」に「捨てる」という考えがない」と宮川部長。独自で編み出した循環型農業は、意識のありようにも変化をもたらしているようにも見える。(加藤社一郎)

アナオサは三河湾の海中1〜5tに浮遊し、「トンボ」と呼ばれるT字の器具ですくい集める。泥が大量に付着するため、洗浄や乾燥、焙煎などの工程で除去する。捨てる場合は産業廃棄物になる。これを有効活用しようと、15年ほど前に「特殊肥料」として県の認可を得て、「マリンプラント」と名付け



つくる責任 つかう責任

アナオサに付着した泥や貝殻でつくった特殊肥料「マリンプラント」を見せる宮川友穂さんと宮川加奈絵さん。田原市西山町で、三河湾で採取できるアナオサ。宮川産業提供



地元のぬくといTAHARAの海と畑が大好き

